

日本電子音楽協会第一回定期演奏会

1992年11月3日(火)

開場 6:00 p.m.

開演 6:30 p.m.

十字屋ホール

岩崎 真 : <<Aria>>

Voice : 内田 房江

大河内俊則 : a ruling passion

Flute : 村田 四郎

岡崎 光治 : "碑の音-VII"-2台のシンセサイザーのための

シンセサイザー I : 石垣 弘子

シンセサイザー II : 岡崎 光治

嶋津 武仁 : Territory III (領域 III) ... Wind & Time

Piano : 嶋津 明美

寺井 尚行 : [pá:sij]

Tuba : 安元 弘行

松本日之春 : 古の鳥 (L'oiseau d'autrefois)

(50音順)

箏、唄 : 草間 路代

ソフトウェア : 堀井 洋一

(日立中央研究所)

協賛 : (株) 銀座十字屋

(株) ミディア

お問い合わせ :

日本電子音楽協会

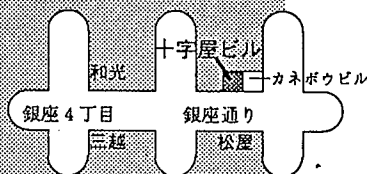
TEL 03-5997-5018

チケットセゾン

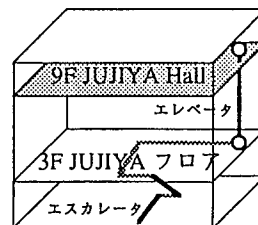
TEL 03-5990-9990

東京文化会館チケットサービス TEL 03-3824-7003

入場料 ¥3,000 (全席自由席)



駐車場の用意がありませんので、
お車でのお越しは御遠慮下さい



銀座通りからエスカレーターで3Fまで上がり、
ホール専用エレベータで9Fホールまでお越し下さい

日本電子音楽協会

第一回定期演奏会

1992年11月3日(火)

十字屋ホール

主催：日本電子音楽協会
協賛：(株)銀座十字屋
(株)メディア

日本電子音楽協会

第一回定期演奏会

1992年11月3日(火)

十字屋ホール

主催：日本電子音楽協会
協賛：(株)銀座十字屋
(株)メディア

ご挨拶

電子音楽は1953年にドイツケルン放送局における世界初の公開以来、ムーグ、ブックラー等のアナログ方式を経て、今日のデジタル時代に至りました。そして現在、わが国の電子メーカーはデジタル音源のみならず、多くの画期的な製品によって世界の音楽界に多大な貢献をしております。

このように機器類が日々進歩を遂げる一方、これらを用いた芸術的な音楽作品の開拓も多くの作曲家たちによって実行されておりますが、機器の発達に比べれば、残念ながらその質と数は未だ必ずしも十分とは申せません。

わが国の電子業界が世界一の水準にあることから、逆に、わが国における電子音楽作品がいかなる状況にあるのか、世界の国々から興味と期待が集中しております。わが国が機器を作っ一流ならば、音楽作品を作っ一流であるべきと云うことは、だれしもが到達する素朴な結論であり、また願いでもあります。

このような状況の中にあるわれわれ日本の作曲家が、さらに本来の創造意欲を燃焼させ、世界的視野に立った活動をするため、このたび日本電子音楽協会を設立しました。この協会は、作曲家、電子技術者、コンピューター技術者、音楽学者などによって組織されます。

今後、われわれは作品の公開、諸国との作品交流、学術的研究の発表の場も設け、活動の場を広く展開してゆきたいと考えておりますので、皆様方のお力添えを仰ぎたいと願っております。

日本電子音楽協会代表
南 弘明

プログラム

岩崎 真 : 〈Aria〉

Voice : 内田 房江

大河内俊則 : a ruling passion

横笛 : 村田 四郎

岡崎 光治 : "碑の音—VII"—2台のシンセサイザーのための

シンセサイザー I : 石垣 弘子

シンセサイザー II : 岡崎 光治

嶋津 武仁 : Territory III (領域 III) ... Wind & Time

Piano : 嶋津 明美

寺井 尚行 : [pá:sinj]

Tuba : 安元 弘行

松本日之春 : 古の鳥 (L'oiseau d'autrefois)

箏、唄 : 草間 路代
ソフトウェア : 堀井 洋一
(日立中央研究所)

作品解説

《Aria》

この作品では、声から電子音へのリアルタイムな変換を主としている。声をトリガーとして発せられる電子音は、原音のさまざまなパラメータ（音高、音強など）により変化する。今回は、全体のシステムをやや簡略にするため、一部テープでの再生部分も含まれている。

変換のプログラムはPC-9801上Turbo Cによる自作のものだが、下位ルーチンにおいてはプログラマー・久木野勉氏の協力を得ている。

「アリア」としてのテキストは、ジェイムス・ジョイスの「フィネガンズ・ウェイク」等から引用しているが、ほとんど「音（おん）」としての必要からで、意味性はない。

岩崎 真

1957年岡山市生まれ。東京芸術大学大学院作曲課程修了。作曲を南弘明、河田文忠氏らに師事。電子音を中心とした作品を主体とし、さまざまな音楽活動を展開している。現在、東京芸術大学音楽研究センター音響研究室助手。

内田 房江（ヴォイスアーティスト）

東京芸術大学声楽科卒。リアイタル、演奏活動のかたわら、声の領域を広げるパフォーマンス作品を多数発表。現在、渋谷ジャンジャンにてソロヴォイスシリーズ、また「音が見えるとき」と題した"Earth Tune Project"を展開中。

a ruling passion

有機的感触のある反応を目指して制作。

主導権を握っているのは奏者である。奏者とコンピュータは共通の音列を保持している。コンピュータは奏者の演奏に協調し、反抗し、うろたえ、時に奏者を惑わすはずである。また、当初、奏者の演奏する楽器としてフルートを計画していたが、打ち合わせの段階で、本日の演奏お願いした村田四郎先生に横笛の音を聞かせていただき、その音に感じ入ってしまい、横笛を演奏していただくことになった。

おいでになった皆様のお尻がモノモノするのは、悲しいかな請け合いであるが、少しでも、奏者と掛け合おうとする計算機の意志を感じていただければさいわいです。

開発言語：BORLAND C++、TURBO ASSEMBLER、N88-BASIC

使用機材：NEC PC-9801ES、PC-9801DA、Roland VP-70、MPU-PC98、YAMAHA TX816、TG-77、Oberheim Matrix-1000

大河内俊則

1963年三重生まれ。愛知県立芸術大学卒業。以後SEAのメンバーとして、名古屋で作曲、制作活動をしている。主な電子音楽作品「逆転」、「霧の中の相對」。

村田 四郎（横笛）

1949年京都生まれ。ソトム・ヤマシタ率いる「赤い仏像」のメンバーとして渡欧、74年帰国。76年から13年間名古屋フィルに在籍。その間数々のリサイタルや室内楽、またソリストとしてオーケストラとの共演を行なう。90年にはソトム・ヤマシタらと共に、英国オールドボローフェス、エディンバラ国際フェスに出演する。愛知県立芸術大学助教授、日本フルート協会常任理事。

碑の音—VII

音源とするSY-77、TG-77の持つ変調機能、フィルター機能などによる音づくりの可能性に挑んでみた。一方の奏者が、そこに与えられている音形、音群をキーボード操作により様々な表情に変化させて提示し、他方がそれに即興的に応じてゆくというかたちで曲を進行させて行く。当然、曲の各部分で奏者の、この役割の交代が行なわれる。使われる音色群それぞれの音場の変化、移動もこの曲の中の重要な要素となっている。

岡崎 光治

1935年満州生まれ。東北大学卒。日本作曲家協議会、グルーブトライオン各会員。宮城教育大学、山形大学非常勤講師。主要作品：歌劇「鳴砂」、電子音による「碑の音I～VI」、合唱のための「いろはうた」5曲など。

石垣 弘子（シンセサイザー）

武蔵野音楽大学音楽学部ピアノ科卒業。今井紀子、中根伸也の各氏に師事。仙台、東京における、さまざまな企画、コンサートなどに参加。又、本年6月に仙台で開催された“仙台アジア音楽祭 '92"にも出演。

「領域 III」

…オブジェ化したピアノとコンピュータの為に（1992、初演）

これは「作品」というよりはむしろ「プロセス」と呼ぶべきものである。「作者」は、ここでは「プログラマー」として外見上の「作品」の構成に参画しているにすぎない。

まずピアノ奏者にはピアノがもつ表現可能な「領域」の中から各々が独立した「領域」を持つ17の音響オブジェ（1から17まで番号付けられた音のグループ）が用意されている。次に奏者はあらかじめ設定された組み合わせ及び進行に関するルール（マニュアル）に従って、一つのプランを立てる。奏者と作者のあいだのフィードバックの過程で「作品」が聴者に提供される。その際、奏者は自らの選択の過程を聴者に知らせる。

こうした手続きはそのまま同時に進行するコンピュータによる音響の制作のプロセスにも展開されている。演奏者の選択に対応して、マニピュレータ（作曲者）がコンピュータにプログラムされているサウンド（単音、音群）やエフェクト（リバーブ）の組み合わせを選択する。作品の時間的進行に伴って、それをやはりプログラミングされている手続きに従って、変形・変調させていく。こうした対応は、視覚的には原始的アンサンブルの形を維持しながら、コンピュータによる最もリアルなものであり、コンピュータを人間の演奏に対応させる最も理想的な方法であり、そして最も単純な操作によって、大きな効果がえられるものでもあると考えている。

嶋津 武仁

ベルリン芸術大学卒業。ISCM 1982、88、90（委嘱）、ICMC（コンピュータ音楽国際会議）88等に入賞・入選。IRCAM、UPIC＝クセナキス・スタジオ等数多くヨーロッパ・アジア各地の音楽祭、研究所より招かれ出品・参加。

嶋津 明美（ピアノ）

上野学園大学ピアノ科卒。ライプチヒの作曲家と共に（87、独）、国際現代音楽協会（ISCM）世界音楽祭88（香港）、現代の音楽展88、89、東京現代音楽祭、アジア現代音楽祭（91、マニラ）、（92、ソウル）等に出演。

[pá:siŋ]

魔物達は、私を嫌っているようだ。特に熟年の魔物達は。でも、今夜は、鳴こうが、喚こうが、会う事になってしまった。合えばいいのだが・・・

ただ、ただ、時間が過ぎるのを待つ、デジタルな私。

と、彼は言っているのですが、皆様にもその現場に立ち会っていただけ、出会いを創った私としては、ただ感謝の一言に尽きます。

開発言語：BORLAND C:TASM

使用機材：NEC PC9801 NS/T, Roland CP-40, MPU-PC98,
YAMAHA TG-77, Oberheim Matrix-1000

寺井 尚行

1951年岐阜生まれ。愛知県立芸術大学卒業。SEAのメンバーとして、コンピュータ音楽の作曲・制作活動を行なう。筑波科学万博・山形国体等の開会式音楽、室内楽曲、吹奏楽曲等作品多数。現在、愛知県立芸術大学講師。

安元 弘行 (チューバ)

1944年旧満州、大連市生まれ。東京芸術大学卒業。1985年より5年間、日本ユーフォニアムチューバ協会理事長、1991年よりジュネーブ国際音楽コンクールの審査員を勤め、ゲスト・プレイヤーとして、海外でも精力的に活動している。東京都交響楽団をへて、現在、愛知県立芸術大学助教授。

古の鳥

答えぬに なよひ響めそ 呼ぶ小鳥 佐保の山辺を 上り下りに
春の意
かくばかり 雨の降らくに ほととぎす 卯の花山に なほか鳴くらむ
たづ
鶴がねの 今朝鳴くなへに 雁がねは いづくさしてか 雲隠るらむ
天飛ぶや 雁の翼の おは 覆ひ羽の いづく漏りてか 霜の降りけむ
あまくも よそ
天雲の 外に雁が音 聞きしより はだれ霜降り 寒しこの夜は

万葉集から上記の五首を選び、テキストとした。自然の中で、素朴におおらかな感情を歌ったこれらの歌をもとに箏の響きを書き、日本語の豊かな情感を箏唄とし、それらの響きにリアルタイムに反応する映像と響きをコンピュータで創りだした。囀となる唄と箏と反応する映像がコンチェルティーノとなり、地となるマルチトラックレコーダに記録された電子音のリビエーノと共にほのかな協奏曲となる。対峙する奏者とコンピュータが互いに反応し、コンピュータは奏者によってコントロールされるインテリジェントな合奏体となる。決してコンピュータ自身が自動演奏をするものではない。まず音楽を。そしてコンピュータでしか実現できない音楽世界を。そして最後は人の感性へ。..... ゆったり流れるときの流れをお楽しみください。

松本日之春

1945年生まれ。毎日音楽コンクール、エリザベート国際音楽コンクール入賞。東京芸大大学院修了、パリ国立高等音楽院首席卒業。多数の器楽、電子音楽作品をパリで初演。帰国後、アンサンブルヴァンドリアン同人として中島健蔵賞を受賞。管弦楽曲「レ・レオニード」他多数の作品を発表。現在東京芸大、桐朋、フェリスで教える。

草間 路代 (箏、唄)

東京芸大邦楽科卒業。NHK 邦楽技能者育成会卒。谷珠美氏に師事。東京、三島を中心に幅広い演奏活動を続ける。松本作品「春はあけぼの」、「花伝旅」の初演等、現代邦楽演奏にも活躍。箏曲新潮会会員、谷珠美邦楽研究グループ会員。箏曲路の会主宰。

堀井 洋一 (ソフトウェア)

1965年大阪市生まれ。90年神戸大学大学院理学研究科修了。同年(株)日立製作所中央研究所入社。